

●漁況情報

- 3月4日、三浦半島西部の定置網で小羽から中羽サイズのマイワシがまとまって漁獲され、長井町漁協の定置網3ヶ統で合計45t、横須賀市大楠漁協の定置網2ヶ統で合計27tの水揚げがありました。近年、全国的にカタクチワシ資源が減少している一方で、マイワシ資源は増加傾向にあります。
- 3月11日、相模湾のしらす船びき網漁が解禁になりました。各浜で多い時には1日あたり100kg以上の漁があるそうです。新型コロナウイルスなど暗い話題が多い昨今ですが、相模湾の春を告げる味覚、湘南しらすを食べて元気を出して行きましょう。

●浜の話題

- 3月、横須賀市大楠漁協青年部会は、かながわブランド販売促進支援事業を活用して「佐島の地だこPRポスター」(B4版)を作成しました。ポスターは漁業者の直売所はもとより、出荷先の鮮魚店や料理店等でも掲示していただき、消費者へのPRに活用するそうです。



作成したPRポスター



直売所にポスターを掲示

- 3月3日、三和漁協城ヶ島支所は、浜の活力再生プランにもとづく磯焼け対策の一環として、漁場モニタリング調査を実施しました。城ヶ島地先では、漁業者自らが磯焼け対策に積極的に取り組むことで藻場が回復してきましたが、近年大型化している台風の時化で藻場がなくなることもあります。今回の調査ではカジメ等の幼葉が確認された場所もあった一方で、サンゴイソギンチャクの群落が磯根を覆っている場所もありました。藻場の環境は常に変化しているので、今後も継続的な調査が必要と考えられました。



カジメの幼体



サンゴイソギンチャクの群落

- 3月3日、4日に東京で開催が予定されていた「第25回全国青年女性漁業者交流大会」は、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。本県からは小田原市漁協所属の石垣さん（米神・石橋漁場）が出席し、漁協直営の定置網での長年の取組み成果を発表する予定でした。大会は中止になったものの、事前の提出書類による審査により「JF 全国女性連・全国漁青連会長賞」を受賞しました。
- 3月6日、平塚市漁協は今年初めての海底耕耘を実施しました。水深3～4mの砂底域でネットのついた海底耕耘機を曳くことにより、海底を耕して底質を改善するだけでなく、同時に生物調査やゴミの回収も行うものです。今回は、昨年と比べチョウセンハマグリやダンバイキサゴ等の生物やゴミが少ない傾向でした。同漁協では、この作業をあと5回実施する予定です。



海底耕耘機の引き揚げ



回収されたゴミや貝類等（魚はカスザメ）